

令和5年度 自己評価

令和6年4月

土崎カトリックこども園

1. 園の教育・保育方針と今年度の園運営について

土崎カトリックこども園では、子どもたち一人ひとりを尊重して、健康で豊かな心、たくましい心をもつ子どもに育つような教育・保育を目指しています。

- 元気で明るい子ども
- 友だちを思いやるあたたかい心の子ども
- 考えてやりぬこうとする強い心の子ども
- 神様の恵みに感謝の気持ちを持てる子ども

令和5年度は新型コロナウイルスの位置づけが「5類感染症」となったことに伴い、これまで縮小されていた教育・保育活動および園行事等の積極的な展開が求められた中で、職員・保護者・学校評議員による評価を踏まえ、園として教育・保育方針が達成できたかどうかの評価を行いました。

2. 個別の評価項目について

評価項目	評価ポイント	評価	職員		保護者		評議員
			件数	%	件数	%	A～C評価
教育目標・保育	園の教育目標のもと、集団生活の中で一人一人の発達の過程や様々な姿を捉え、その状況を踏まえた援助や指導が行われていたか。また、発達の見通しや活動の予想に基づいて環境を構成していたか。	そうだと思う	9	30	154	89	A
		だいたいそう思う	19	64	17	10	
		あまり思わない	1	3	2	1	
		分からない	1	3	0	0	
			30	100	173	100	
保健・安全指導	子どもの発達の特徴を理解し、伸び伸びと行動できるように職員が危険を取り除いたり、自らの力で安全に行動する能力を身につけたりできるように健康及び安全に過ごすための取り組みが行われていたか。	そうだと思う	12	40	162	93	A
		だいたいそう思う	18	60	10	6	
		あまり思わない	0	0	1	1	
		分からない	0	0	0	0	
			30	100	173	100	
園内研修・外部研修	子どもの発達の姿を捉えるための園内研修を定期的に行ったり、日々の子どもの姿について話し合う機会や外部研修で得た情報を職員間で共通理解するなどの教育・保育の質の向上に努めていたか。	そうだと思う	14	47			A
		だいたいそう思う	14	47			
		あまり思わない	0	0			
		分からない	2	6			
			30	100			
家庭・保護者との連携	保護者との情報交換の機会を設けたり、連絡帳(保育部)を活用したりしながら日々の子どもの姿や成長を伝え合い、家庭との連携を密にし、信頼関係を築くことができていたか。	そうだと思う	15	50			A
		だいたいそう思う	14	47			
		あまり思わない	0	0			
		分からない	1	3			
			30	100			

職員間の連携	定期的なカンファレンスを行ったり、情報交換や意見交換などをしたり、保育者同士コミュニケーションを取り合いながら連携した保育・教育ができていると感じているか。	そうだと思う	11	36			A
		だいたいそう思う	17	57			
		あまり思わない	0	0			
		分からない	2	7			
			30	100			
行事について	園の行事や活動、保育参観など、日々の園生活に配慮し子どもが期待や意欲がもてるような行事内容であったか。また、子どもや保護者同士が交流する場になっていたか。	そうだと思う	16	54	153	89	A
		だいたいそう思う	12	40	18	10	
		あまり思わない	1	3	2	1	
		分からない	1	3	0	0	
			30	100	173	100	
地域との連携	小中学校生とのふれあい、聖園ホーム訪問、職場体験など、学校や地域の人達との交流を積極的に行っていたか。	そうだと思う	6	21	105	61	A
		だいたいそう思う	13	43	58	34	
		あまり思わない	4	13	8	5	
		分からない	7	23	0	0	
			30	100	171	100	
子育て支援	園開放日、未就園児のコアラちゃん教室、あずかり保育など、保護者のニーズにあった活動や支援ができていたか。	そうだと思う	13	43	134	77	A
		だいたいそう思う	14	47	39	23	
		あまり思わない	0	0	0	0	
		分からない	3	10	0	0	
			30	100	173	100	

評議員評価 A: そうだと思う B: だいたいそうだと思う C: あまり思わない

3. 園としての総合評価と、来年度に向けて

結果

個別の評価項目の結果を踏まえて、令和5年度の自己評価を右の通りといたしました。

A

新型コロナウイルスの位置づけが「5類感染症」となったことから、行事に制限を設けなくてもよくなり、祖父母を含めたご家族のみなさんに対し通常の保育・教育活動の成果として子どもたちの成長を見ていただき喜んでもらうことができました。一方、こども園となって8年が経過し、保育認定の子どもたちが増え、幼稚園時代のような形での保護者の協力が難しくなっています。その中で、職員が保護者との連携のもとで試行錯誤を重ねながら教育・保育活動を行っている姿を評価しました。

職員の自己評価の中で、「職員間の連携」を大事に思って仕事をしている職員が多い一方で、連携の大変さやどうやったら連携をとれるのかという難しさを感じている職員の声も多く聞かれました。園児の数も増え、子ども一人ひとりを大切にしていくために、職員間のチームワークがより大切になってきています。仕事の内容はそれぞれ違うものの、互いに連携し協力していく取り組みを今後も続けていきたいと思えます。

園内研修については、自分の園の先生たちがいっしょに子どもたちのことを考えていく研修が充実してきた一方、3歳未満児担当の職員が参加できないという課題がありました。今年度は3歳未満児担当職員対象の園内研修を積極的に実施しました。特別な配慮を必要とする子どもたちを職員全員で考えていくための園内研修も実施し、長い目で子どもたちの発達を見守っていくことを目標として取り組むことができました。

令和6年度は保育ICTシステムの本格運用が始まります。とくに日々の事務的な作業を効率的に行うことによって、子どもたちに目を向ける時間を増やしていけることを目指し、積極的に取り組んでまいります。